

2022年12月5日

PGF生命
 (プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル
 生命保険株式会社)

PGF生命、「くらしの総決算 2022」を発表

PGF生命（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社、代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充）は、2022年10月5日（水）～10月6日（木）の2日間、20～79歳の男女を対象に「くらしの総決算 2022」をインターネットリサーチで実施し、2,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

「くらしの総決算」が、皆さまにとって、今年的生活全般を振り返る機会や、来年より良い生活を送るためのヒントになれば幸いです。



トピックス1 :2022年のお財布事情を表す漢字1字は？物価上昇の影響色濃く反映

最も多かった回答が「減」。一見、収入減が理由だと感じますが、車の購入や旅行など、消費による「減」も理由として多く挙げられました。物価上昇の一方で、コロナ禍での外出自粛の緩和や、欲しかったものの購入による出費が2021年と比べて増えたことがうかがえます。2位「無」や3位「貧」の漢字が上位に挙がったことから、2022年の厳しい金銭事情がうかがえる結果となりました。

お財布事情を表す漢字

1位 減 (124票)
 ・収入減と物価高のダブルパンチ
 ・物価の上がり幅が大きく、家計支出が多くなり、おこづかいが減った

2位 無 (121票)
 ・お金が足りない
 ・お金が貯まらない
 ・お金がどんどんなくなった

3位 貧 (120票)
 ・収入が激減した
 ・家計状態が悪くなった
 ・お金の面で我慢することが多くなった

4位 苦 (91票)
 ・物価高で苦しかった
 ・日々赤字で悩んでいた

5位 普 (84票)
 ・大きな変化がなかった
 ・まあまあ困ることはなく来られた

トピックス2 :今年のくらしを明るくしてくれた有名人 芸能人では「明石家 さんまさん」、

アニメ・漫画のキャラクターでは1位「アーニャ・フォージャー」2位「モンキー・D・ルフィ」3位「ちいかわ」

今年のくらしを明るくしてくれた芸能人の1位は2年連続で「明石家 さんまさん」でした。さんまさんの明るくて素敵な笑顔を見て、今年もたくさんの方が元気をもらったようです。

そして、アニメ・漫画のキャラクター1位は、アニメ『SPY×FAMILY』から「アーニャ・フォージャー」となりました。天真爛漫な性格で幼いながらも様々な困難に立ち向かっていく姿に、共感や感動を覚えた人が多いのではないのでしょうか。

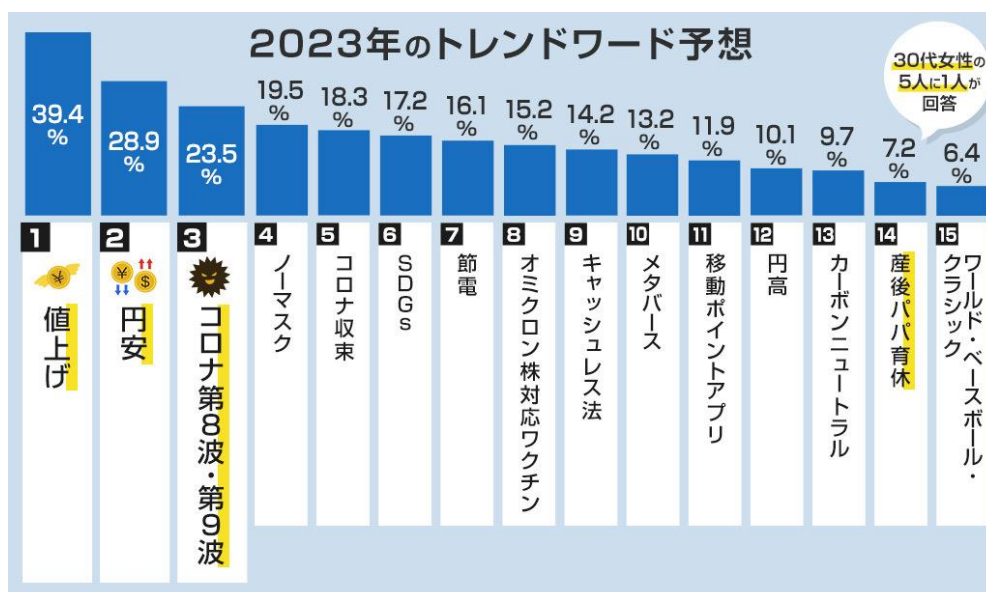
今年のくらしを明るくしてくれた 芸能人・アニメ漫画のキャラクター

芸能人		アニメ漫画のキャラクター	
★1	明石家 さんま	★1	アーニャ・フォージャー (SPY×FAMILY)
★2	錦鯉	★2	モンキー・D・ルフィ (ONE PIECE)
★3	サンドウィッチマン	★3	ちいかわ (ちいかわ)
★4	Snow Man	★4	ドラえもん (ドラえもん)

トピックス3 :2023年はこれだ！トレンドワードになると思うものは？

2023年のトレンドワード予想のTOP5は、「値上げ」や、「コロナ」関連ワードが上位にきました。中でも、「値上げ」「円安」が1位2位を占めているところからも、原材料価格や物流費高騰による物価上昇の影響がうかがえます。

また、30代女性の5人に1人は「産後パパ育休」がトレンド入りすると予想。2022年10月から始まった「産後パパ育休」制度で、これからの育児や働き方にも影響が出てきそうですね。他にも、SDGsや節電など社会や環境に関する前向きなキーワードも多く見られました。未来のためにポジティブな行動を起こすことが来年のトレンドになると予想する人も多いようです。



次頁には、トピックスには収まりきらなかった調査内容項目をハイライトで公開！さらに、4頁目からは、調査の結果詳細を図解解説しています。今年の総決算をチェックしてみてください。

<調査結果ハイライト>

第1章：2022年のくらしを振り返り

- 2022年の総決算 今年1年を100点満点で評価、全体の平均は61点で2021年より5点アップ！
- 今年、個人的にうれしかったこと
1位「旅行に行けた」2位「子どもを授かった」3位「健康でいられた」
- 今年、世の中の出来事でうれしかったこと 1位「新型コロナ流行が沈静化」
2位「大谷 翔平がメジャーリーグで活躍」3位「村上 宗隆が56号ホームラン・三冠王達成」
- 今年、実現した目標 1位「旅行」2位「就職・転職」3位「ダイエット」
- 今年、仕事で起こった変化 20代では3人に1人、30代では4人に1人が「給料が増えた」と回答
- 今年、生活満足度を高めてくれたこと 1位「学び・趣味」2位「人間関係」3位「健康面」
20代女性では「人間関係」が1位
- 今年のくらしを明るくしてくれた芸能人 「明石家 さんまさん」が2年連続1位、2位は「錦鯉」
- 今年のくらしを明るくしてくれたスポーツ選手 「大谷 翔平さん」が2年連続ダントツ1位
- 今年のくらしを明るくしてくれたアニメ・漫画のキャラクター
1位「アーニャ・フォージャー」2位「モンキー・D・ルフィ」3位「ちいかわ」

第2章：2022年のお財布事情を振り返り

- 2022年のお財布事情を表す漢字1字 1位「減」2位「無」3位「貧」
- 普段、お財布に入っているお金の平均は14,980円、近畿男性が21,610円と突出
- 20代の半数以上が「普段、お財布に入っているお金は10,000円未満」と回答
- 普段、お財布に入っていれば安心できるお金の平均は18,540円と、実際に持ち歩くお金よりも高額
20代男性の6人に1人が「3,000円未満」と回答、理由は「基本、キャッシュレス決済」
- 今年、お金をかけたことで人生満足度が上がったもの
「旅行」がダントツ、2位「家電」3位「車」
かけた金額の平均は「旅行・14万円」、「家電・29万円」、「車・352万円」
- 値上げラッシュが家計を直撃！ 「今年、値上げの影響を実感した」80%
値上げの影響を実感したもの 1位「食費」2位「水道光熱費」3位「日用品費」
- 「今年、家計を見直した」昨年調査から8ポイント上昇し58%
家計で見直したものTOP3は「食費」「通信費」「水道光熱費」
- 来年、節約したいものTOP3は「食費」「水道光熱費」「日用品費」
- 家計防衛のために資産に組み入れたい金融商品 1位「預貯金」2位「投資信託」3位「株式」
40代以上の男性では「株式」が1位

第3章：来年の予想と目標

- 来年、実現したい目標 1位「旅行」2位「ダイエット」3位「貯蓄」
- 「来年は今年より家族や友人との人間関係が良くなると思う」20代女性の57%
- 「来年は、今年より仕事の状況が良くなると思う」ビジネスパーソンの31%、
若年層とシニア層で意識差がハッキリと表れる結果に
- 「来年は、今年より日本国内の経済状況は良くなると思う」13%にとどまる
- 2023年のトレンドワードになると思うもの
TOP5は「値上げ」「円安」「コロナ第8波・第9波」「ノーマスク」「コロナ収束」
30代女性の5人に1人が「産後パパ育休」、30代男性の5人に1人が「メタバース」と予想

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。

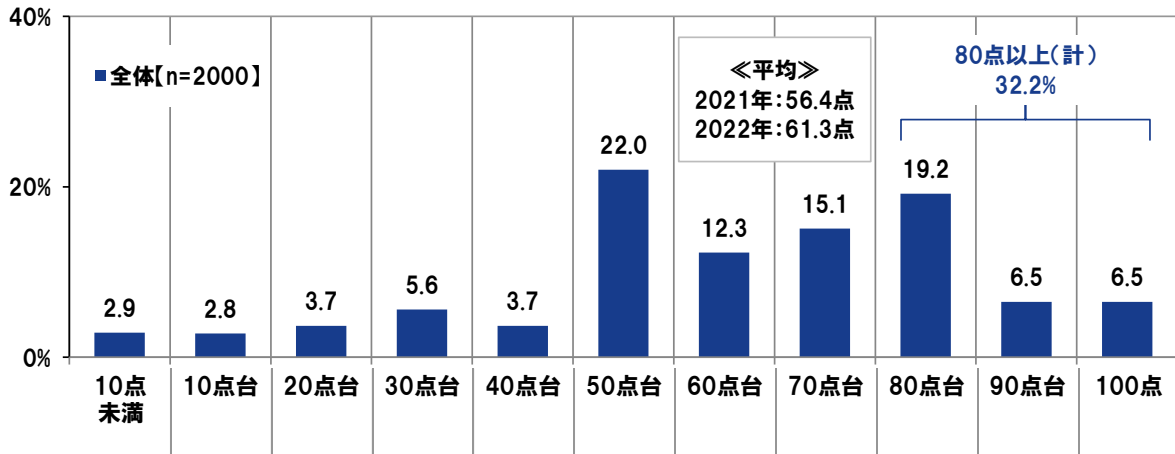
第1章：2022年のくらしを振り返り

■2022年の総決算 今年1年を100点満点で評価、全体の平均は61点で2021年より5点アップ！

20～79歳の男女2,000名（全回答者）に、2022年を100点満点で評価すると何点が質問しました。

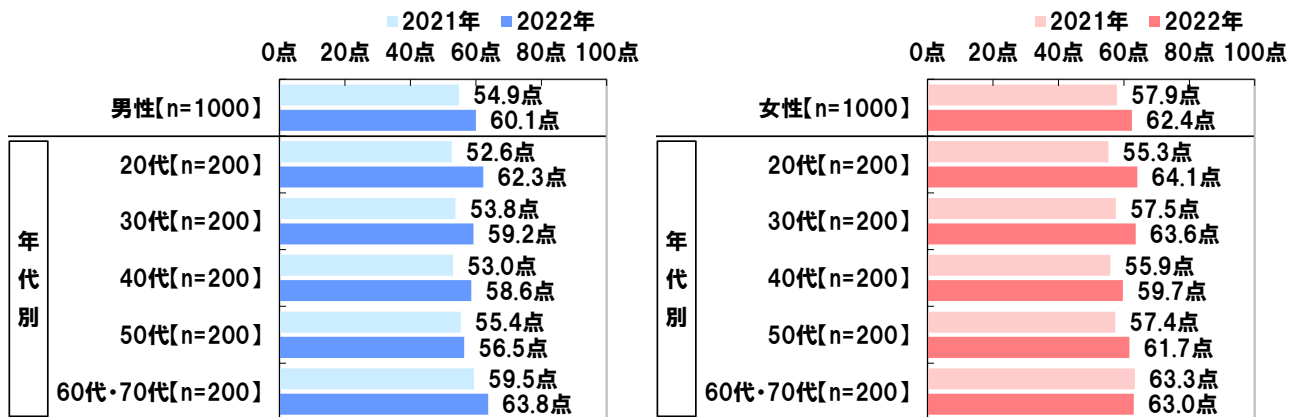
「50点台」（22.0%）に最も多くの回答が集まったほか、「60点台」（12.3%）や「70点台」（15.1%）、「80点台」（19.2%）にも10%超の回答が集まり、平均は61.3点でした。また、『80点以上』と高得点を付けた割合は32.2%となりました。昨年の調査結果と比較すると、2021年56.4点→2022年61.3点と、平均が4.9点上昇しました。

◆今年1年を100点満点で評価すると何点か（自由回答形式：数値／___点）



2021年対比でみると、男女とも20代で平均点の上昇幅が最も大きくなりました。20代の結果を男女別にみると、男性で9.7点の上昇（2021年52.6点→2022年62.3点）、女性では8.8点の上昇（2021年55.3点→2022年64.1点）となりました。

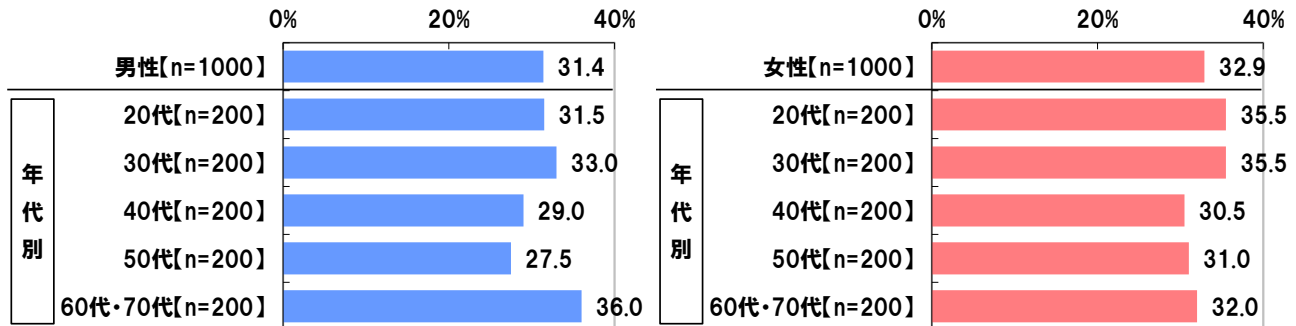
◆今年1年を100点満点で評価すると何点か ※平均を表示



男女・年代別にみると、『80点以上』と回答した人の割合が、60代・70代男性（36.0%）で最も高く、次いで20代女性と30代女性（いずれも35.5%）が高い結果でした。

高得点と評価した人の中には、平穏無事に過ごせた人、願いや希望が叶い幸福感を得られた人、子や孫が生まれた人、努力の成果や自身の頑張りに納得できた人が多いようです。

◆今年1年の評価で『80点以上』と回答した人の割合



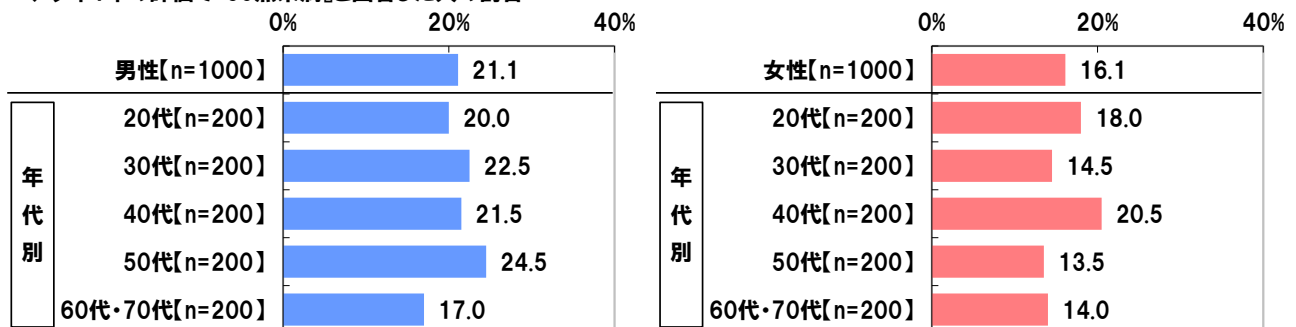
◆今年1年の評価で『80点以上』と回答した理由（自由回答形式）

年代別	理由(抜粋)
60代・70代男性	家族が健康に過ごせた(90点) / 病気もせずトラブルもなかった(100点) 孫ができた(90点) / 娘が結婚した(80点)
20代女性	念願の結婚をした(100点) / 学業が順風満帆だった(100点) 育児と仕事の両立を頑張った(80点)
30代女性	大きな失敗がなかった(80点) / 新たな経験ができた(90点) 子育てや家事は思ったより回っていないが、子どもが生まれたことは幸せ(80点)

一方、『50点未満』と回答した人の割合をみると、50代男性（24.5%）が最も高く、次いで30代男性（22.5%）、40代女性（20.5%）が続きました。

低得点と評価した人の中には、コロナ禍で経済的な影響を受けた人、金銭面や健康面で辛い経験をした人、仕事やプライベートが期待通りに運ばなかった人が多いようです。

◆今年1年の評価で『50点未満』と回答した人の割合



◆今年1年の評価で『50点未満』と回答した理由（自由回答形式）

年代別	理由(抜粋)
50代男性	コロナ禍の影響で収入が減少した(40点) / トラブルばかりだった(20点) 悲しい別れがあった(40点) / 投資がうまくいかなかった(20点) 生活に余裕がなかった(30点)
30代男性	お金の困った年だった(20点) / 後悔することが多かった(40点) 仕事も恋愛もうまくいかなかった(20点)
40代女性	悲しい出来事が多かった(30点) 体調が悪く、金銭的にも苦しかった(10点) / 何も目標を達成しなかった(40点)

■今年、個人的にうれしかったこと

1位「旅行に行けた」2位「子どもを授かった」3位「健康でいられた」

■今年、世の中の出来事でうれしかったこと 1位「新型コロナ流行が沈静化」

2位「大谷 翔平がメジャーリーグで活躍」3位「村上 宗隆が56号ホームラン・三冠王達成」

■今年、実現した目標 1位「旅行」2位「就職・転職」3位「ダイエット」

次に、全回答者（2,000名）に、今年の出来事について質問しました。

【2022年、個人的にうれしかったこと】

1位は「旅行に行けた」でした。新型コロナウイルス感染症対策の行動制限が全国的に緩和され、念願だった旅行に行くことができ、旅情や風光明媚な景観、旅グルメを久しぶりに満喫したという人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「子どもを授かった」、3位「健康でいられた」、4位「子どもの成長を感じた」「就職・転職した」となりました。

【2022年、世の中の出来事でうれしかったこと】

1位「新型コロナ流行が沈静化」、2位「大谷 翔平がメジャーリーグで活躍」、3位「村上 宗隆が56号ホームラン・三冠王達成」、4位「新型コロナ関連の制限緩和」、5位「オリックス・バファローズがパ・リーグ優勝」となりました。新型コロナ関連以外では、メジャーリーグやプロ野球での活躍・偉業が上位に挙がりました。大谷 翔平選手や村上 宗隆選手の歴史的偉業達成の瞬間には、日本中が驚きとともに歓喜や感動に包まれたのではないのでしょうか。

◆今年、個人的にうれしかったこと（自由回答形式）

※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	旅行に行けた	93
2位	子どもを授かった	55
3位	健康でいられた	40
4位	子どもの成長を感じた	38
	就職・転職した	38
6位	コンサート・ライブに行けた	32
7位	孫が生まれた	30
8位	（自身）結婚した	28
9位	子どもが結婚した	25
10位	仕事で成功した	24

◆今年、世の中の出来事でうれしかったこと（自由回答形式）

※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	新型コロナ流行が沈静化	125
2位	大谷 翔平がメジャーリーグで活躍	104
3位	村上 宗隆が56号ホームラン・三冠王達成	57
4位	新型コロナ関連の制限緩和	23
5位	オリックス・バファローズがパ・リーグ優勝	20
6位	北京2022冬季オリンピック開催	16
7位	水際対策緩和・海外旅行解禁	13
8位	イベント・スポーツ観戦再開	12
9位	コンサート・ライブ再開	8
	マイナポイント第2弾実施	8
	給付金の支給	8
	東京ヤクルトスワローズがセ・リーグ優勝	8

【2022年、実現した目標】

1位「旅行」、2位「就職・転職」、3位「ダイエット」、4位「健康維持・健康づくり」、5位「資格取得」でした。

2021年の調査結果と比較すると、「旅行」は5位から順位を大きく上げ2022年は1位でした。

◆今年、実現した目標（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]

<2022年調査>

		名
1位	旅行	59
2位	就職・転職	55
3位	ダイエット	50
4位	健康維持・健康づくり	42
5位	資格取得	41
6位	仕事の充実	38
7位	貯蓄	37
8位	投資・資産形成	23
9位	結婚	18
10位	収入アップ	17

<2021年調査>

		名
1位	就職・転職	55
2位	健康維持・健康づくり	48
3位	ダイエット	39
4位	貯蓄	34
5位	資格取得	29
	旅行	29
7位	仕事の充実	28
8位	投資・資産形成	24
9位	住宅購入	15
10位	散歩・ウォーキング	14
	体調改善	14

■今年、仕事で起こった変化 20代では3人に1人、30代では4人に1人が「給料が増えた」

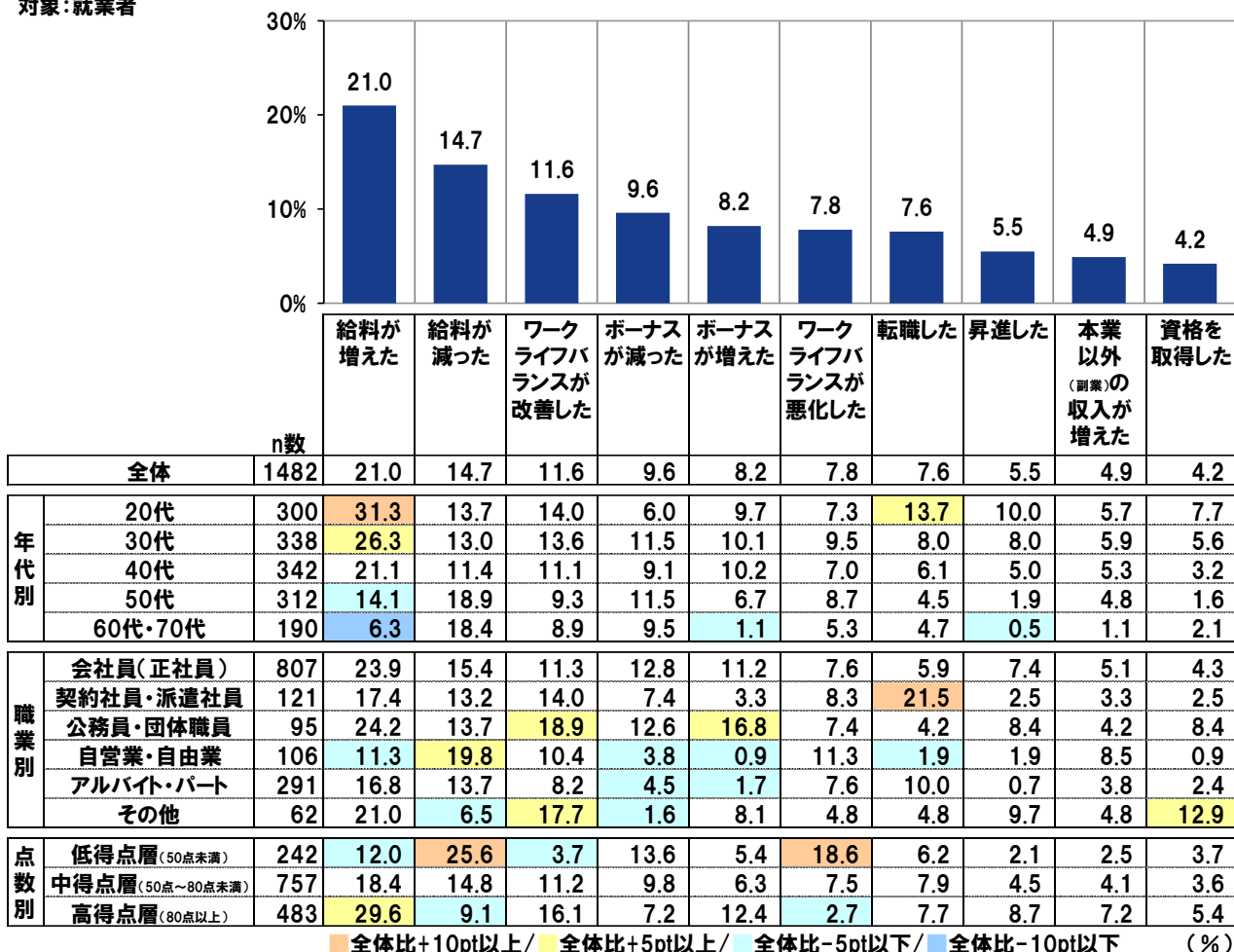
就業者（1,482名）に、今年1年、仕事でどのような変化があったか聞いたところ、「給料が増えた」（21.0%）が最も高く、「給料が減った」（14.7%）、「ワークライフバランスが改善した」（11.6%）、「ボーナスが減った」（9.6%）、「ボーナスが増えた」（8.2%）が続きました。

年代別にみると、20代と30代の7人に1人が「ワークライフバランスが改善した」と回答。コロナ禍以降、テレワークの普及など働き方の多様化が進み、ワークスタイルの選択肢が増えたことで、ワークライフバランスが良くなったと感じている若年層が多いのではないのでしょうか。また、「給料が増えた」と回答した20代・30代も多く、全体と比べて5ポイント以上高くなりました（20代31.3%、30代26.3%）。

職業別にみると、公務員・団体職員の18.9%が「ワークライフバランスが改善した」と回答し、他の層と比べて高くなりました。

今年1年を100点満点で評価した得点の状況別にみると、「給料が減った」（低得点層25.6%、中得点層14.8%、高得点層9.1%）や「ワークライフバランスが悪化した」（低得点層18.6%、中得点層7.5%、高得点層2.7%）は低い点数を付けた人ほど高くなりました。収入減やワークライフバランスの悪化が、生活満足度を下げている結果となりました。

◆今年1年、仕事ではどのような変化があったか（複数回答形式） ※上位10位までを表示
対象：就業者

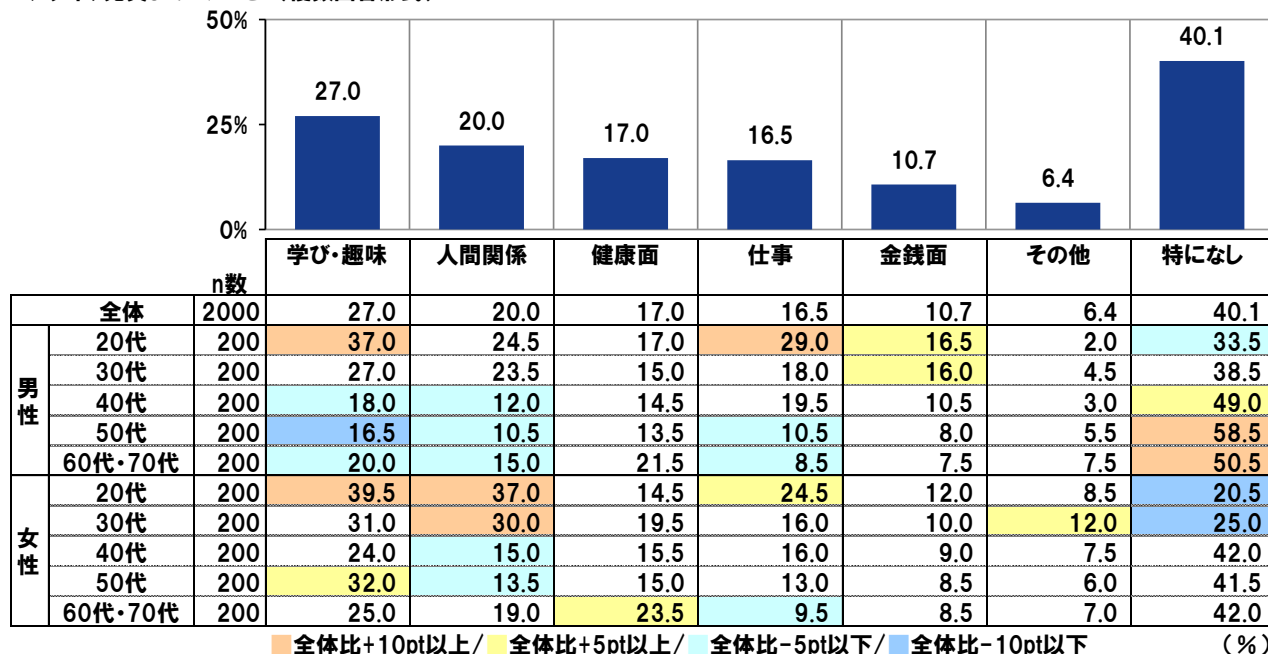


■今年、生活満足度を高めてくれたこと 1位「学び・趣味」2位「人間関係」3位「健康面」
20代女性では「人間関係」が1位

全回答者（2,000名）に、今年、充実していたことを聞いたところ、「学び・趣味」は27.0%、「人間関係」は20.0%、「健康面」は17.0%、「仕事」は16.5%、「金銭面」は10.7%となりました。

性年代別にみると、20代男女では「学び・趣味」が充実していたという回答が多く、「健康面」が充実していたという回答が多かったのは60代・70代男女でした。

◆今年、充実していたこと（複数回答形式）

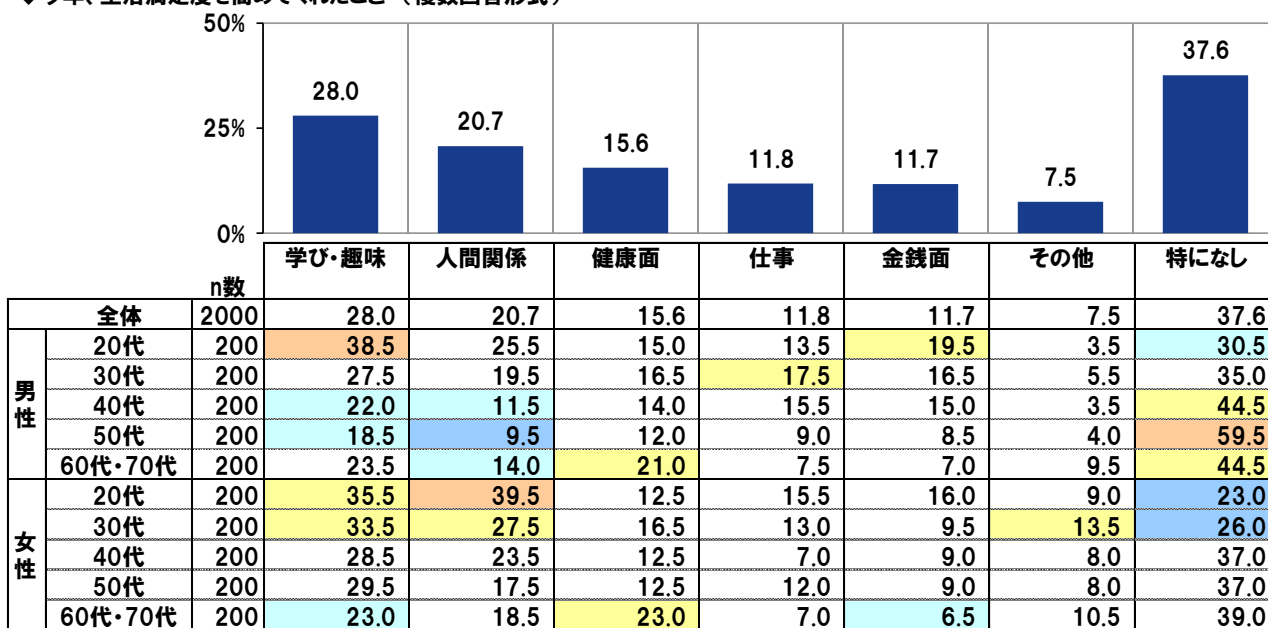


■全体比+10pt以上/ ■全体比+5pt以上/ ■全体比-5pt以下/ ■全体比-10pt以下 (%)

今年、生活満足度を高めてくれたことを聞いたところ、「学び・趣味」は28.0%、「人間関係」は20.7%、「健康面」は15.6%、「仕事」は11.8%、「金銭面」は11.7%と、“今年、充実していたこと”と同じ順位になりました。自己研鑽に励んだり、趣味を満喫したりしたことで、暮らしに対する充実感や満足感が向上した人が多いようです。

性年代別にみると、20代女性では「人間関係」（39.5%）が1位、60代・70代女性では「学び・趣味」と「健康面」（いずれも23.0%）が同率1位でした。

◆今年、生活満足度を高めてくれたこと（複数回答形式）



■全体比+10pt以上/ ■全体比+5pt以上/ ■全体比-5pt以下/ ■全体比-10pt以下 (%)

- 今年の暮らしを明るくしてくれた芸能人 「明石家 さんまさん」が2年連続1位、2位は「錦鯉」
- 今年の暮らしを明るくしてくれたスポーツ選手 「大谷 翔平さん」が2年連続ダントツ1位

全回答者（2,000名）に、今年の暮らしを明るくしてくれた有名人とアニメ・漫画のキャラクターを聞きました。

【芸能人】

2年連続で「明石家 さんまさん」が1位となり、2位「錦鯉」、3位「サンドウィッチマン」、4位「Snow Man」、5位「川島 明さん」と続きました。

挙げた理由をみると、1位の明石家 さんまさんについては「いつも笑わせてくれ、気持ちが前向きになれる」（40代女性）や「見ているだけで明るくなれる」（50代女性）、「いつも明るくて面白い」（70代男性）など、元気をもらえたことで気持ちや暮らしが明るくなったという実感が多く挙げられました。2位の錦鯉については「売れない時代が長く続いても諦めずに頑張って花を咲かせた」（40代女性）や「長年苦勞しており、元気をもらえた」（50代女性）など、長い下積み時代を経てブレイクした姿に励まされたといった回答がありました。

◆今年の暮らしを明るくしてくれた芸能人（自由回答形式）※上位10位までを表示
全体[n=2000]

<2022年調査>			<2021年調査>		
順位	名前	名	順位	名前	名
1位	明石家 さんま	31	1位	明石家 さんま	35
2位	錦鯉	22	2位	有吉 弘行	30
3位	サンドウィッチマン	21	3位	新垣 結衣	26
4位	Snow Man	17	4位	フワちゃん	23
5位	川島 明	16	5位	千鳥	22
6位	フワちゃん	12	6位	BTS	19
	千鳥	12		サンドウィッチマン	19
	大泉 洋	12	8位	ダウンタウン	14
9位	King & Prince	11	9位	星野 源	13
	なにわ男子	11	10位	嵐	12
	新垣 結衣	11			

【スポーツ選手】

2年連続で「大谷 翔平さん」がダントツとなり、2位「村上 宗隆さん」、3位「羽生 結弦さん」、4位「井上 尚弥さん」「久保 建英さん」と続きました。

挙げた理由をみると、1位の大谷 翔平さんについては「大リーグでの活躍に、同じ日本人としてワクワクした」（30代男性）や「いつでもチャレンジしている姿を見て前向きになれた」（30代女性）、「たくさんの活躍でワクワクをもらえた」（60代女性）など、メジャーリーグの舞台で活躍している姿やチャレンジを続ける姿に元気やワクワクをもらえたという回答が多数みられました。2位の村上 宗隆さんについては「チームのリーグ優勝に貢献し、三冠王も獲得した。同年代で、見ていて元気をもらえる」（20代男性）や「プレッシャーをはねのけ、頑張っってホームランを打ち続けた」（50代女性）、「大記録達成に向けて毎日ドキドキさせてくれた」（20代女性）など、史上最年少での三冠王獲得に感動をもらったという回答がありました。

◆今年の暮らしを明るくしてくれたスポーツ選手（自由回答形式）※上位10位までを表示
全体[n=2000]

<2022年調査>			<2021年調査>		
順位	名前	名	順位	名前	名
1位	大谷 翔平	750	1位	大谷 翔平	704
2位	村上 宗隆	147	2位	池江 璃花子	27
3位	羽生 結弦	19	3位	水谷 隼	26
4位	井上 尚弥	7	4位	松山 英樹	20
6位	久保 建英	7	5位	伊藤 美誠	16
	石川 祐希	6	6位	橋本 大輝	13
7位	岡林 勇希	5		佐藤 輝明	13
8位	宇野 昌磨 / 佐々木 朗希	4	8位	ウルフ・アロン	8
	/ 三笥 薫 / 山本 由伸		9位	阿部 詩	7
	/ 松田 宣浩 / 八村 塁			羽生 結弦	7

■今年のくらしを明るくしてくれたアニメ・漫画のキャラクター

1位「アーニャ・フォージャー」2位「モンキー・D・ルフィ」3位「ちいかわ」

【アニメ・漫画のキャラクター】

1位「アーニャ・フォージャー (SPY×FAMILY)」、2位「モンキー・D・ルフィ (ONE PIECE)」、3位「ちいかわ (ちいかわ)」、4位「ドラえもん (ドラえもん)」、5位「スヌーピー (PEANUTS スヌーピー)」「フグ田サザエ (サザエさん)」「江戸川コナン (名探偵コナン)」となりました。

挙げた理由をみると、1位のアーニャ・フォージャーについては「見ているとかわいいし、元気が出た」(20代女性)、「かわいくて癒された」(20代男性)など、愛らしい姿に元気づけられたという回答や、癒されたという回答が多数みられました。2位のモンキー・D・ルフィについては「見ていると悩みを忘れさせてくれる」(20代女性)や「元気にさせてくれるセリフが多い」(50代女性)、「揺るがない信念が見ていて気持ち良い」(30代女性)など、ルフィの明るく真っ直ぐなところに励ましや活力をもたらしたという回答がありました。また、3位のちいかわについては「かわいくて元気をもらえる」(40代女性)や「癒される」(20代男性)、「ただただ、かわいい」(30代女性)など、キャラクターのかわいさに和んだという回答がありました。

◆今年のくらしを明るくしてくれたアニメ・漫画のキャラクター
(自由回答形式) ※上位10位までを表示

全体【n=2000】

		名
1位	アーニャ・フォージャー (SPY×FAMILY)	86
2位	モンキー・D・ルフィ (ONE PIECE)	44
3位	ちいかわ (ちいかわ)	32
4位	ドラえもん (ドラえもん)	25
5位	スヌーピー (PEANUTS スヌーピー)	22
	フグ田サザエ (サザエさん)	22
	江戸川コナン (名探偵コナン)	22
8位	野原しんのすけ (クレヨンしんちゃん)	20
9位	アンパンマン (それいけ! アンパンマン)	18
10位	龍門炭治郎 (鬼滅の刃)	17

第2章：2022年のお財布事情を振り返り

■2022年のお財布事情を表す漢字1字 1位「減」2位「無」3位「貧」

今年1年のお財布事情について質問しました。

全回答者（2,000名）に、今年1年の“お財布事情”を表す漢字（1字）を聞いたところ、1位「減」、2位「無」、3位「貧」、4位「苦」、5位「普」となりました。

挙げた理由をみると、1位の「減」については「値上げばかりでお金がどんどん減った」（60代女性）や「収入減と物価高のダブルパンチ」（60代女性）、「収入が減った」（30代女性）、「物価の上がり幅が大きく、家計支出が多くなり、おこづかいが減った」（60代男性）など、相次ぐ値上げや物価上昇の影響、おこづかいや収入の減少に関する回答が多数挙げられました。2位の「無」については「お金が足りない」（20代男性）や「お金が貯まらない」（50代男性）、「お金がどんどんなくなった」（30代男性）、3位の「貧」については「収入が激減した」（70代男性）や「家計状態が悪くなった」（60代男性）、「お金の面で我慢することが多かった」（20代女性）など、金銭面で余裕がない1年だったと実感している回答がありました。

男女別にみると、男性では1位「無」、2位「貧」、3位「減」、女性では1位「減」、2位「貧」、3位「苦」となりました。

◆今年1年の“お財布事情”を表す漢字(1字) (自由回答形式) ※上位10位までを表示

全体[n=2000]

	名	理由(抜粋)
1位	減	124 値上げばかりでお金がどんどん減った / 収入減と物価高のダブルパンチ / 収入が減った / 物価の上がり幅が大きく、家計支出が多くなり、おこづかいが減った
2位	無	121 お金が足りない / お金が貯まらない / お金がどんどんなくなった
3位	貧	120 収入が激減した / 家計状態が悪くなった / お金の面で我慢することが多かった
4位	苦	91 物価高で苦しかった / 日々赤字で悩んでいた
5位	普	84 大きな変化がなかった / まあまあ困ることはなく来られた
6位	並	71 可もなく不可もなくだった / 特に前年と変化がなかった
7位	少	54 給料が少なかった / おこづかいが少なかった
8位	空	47 お金が出ていくばかりで残らなかった / いつも中身が空っぽだった
	寂	47 お金が出ていく一方だった / 金欠になることが多かった
10位	良	46 計画的に貯金ができた / 収入が増加した

男性[n=1000]

	名	名
1位	無	78
2位	貧	69
3位	減	58
4位	苦	42
5位	普	41
6位	少	34
	並	34
8位	金	26
9位	空	25
	貯	25

女性[n=1000]

	名	名
1位	減	66
2位	貧	51
3位	苦	49
4位	普	43
	無	43
6位	並	37
7位	良	29
8位	寂	28
	空	22
9位	厳	22
	出	22

- 普段、お財布に入っているお金の平均は 14,980 円、近畿男性が 21,610 円と突出
- 20代の半数以上が「普段、お財布に入っているお金は 10,000 円未満」と回答

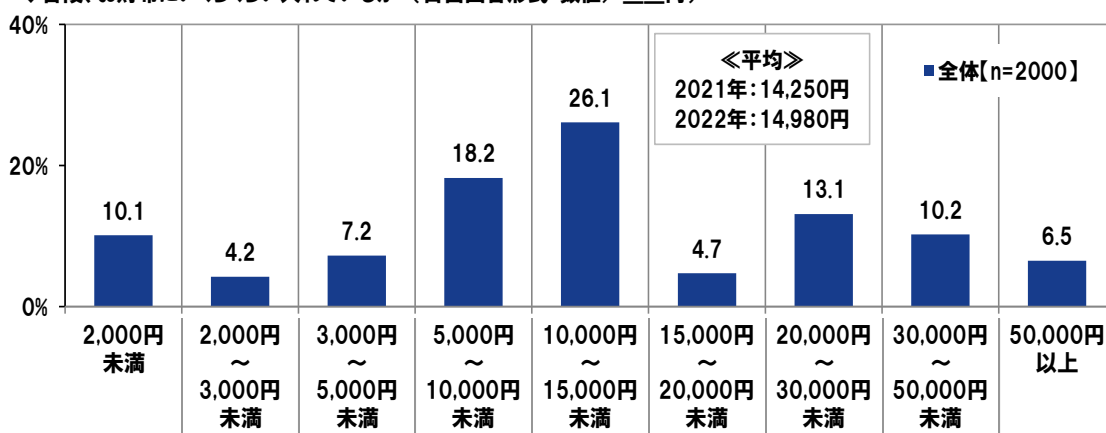
今年 1 年のお財布事情について質問しました。

全回答者 (2,000 名) に、普段、お財布にいくらくらい入れているか聞いたところ、「10,000 円～15,000 円未満」(26.1%) に最も多くの回答が集まり、平均は 14,980 円でした。また、『10,000 円未満』の割合は 39.7%、『20,000 円以上』の割合は 29.8%となりました。

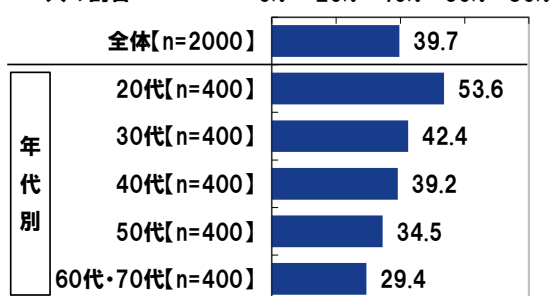
年代別にみると、『10,000 円未満』の割合は、30代以上(30代 42.4%、40代 39.2%、50代 34.5%、60代・70代 29.4%)では半数を下回ったのに対し、20代(53.6%)では半数を超えました。他方、『20,000 円以上』の割合は、20代(19.8%)では2割にとどまり、60代・70代(39.5%)と比べて約 20 ポイントの差が開きました。

昨年の調査結果と比較すると、お財布に入れているお金の平均は、2021 年 14,250 円→2022 年 14,980 円と 730 円の増加となりました。

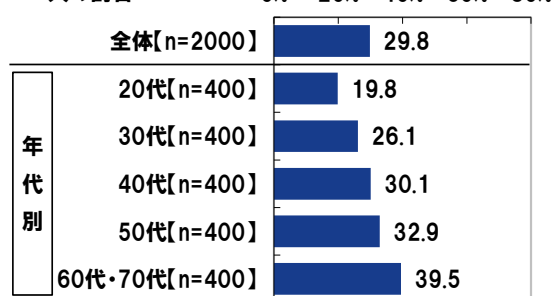
◆ 普段、お財布にいくらくらい入れているか (自由回答形式: 数値/ ___円)



◆ 普段、お財布に入っているお金が『10,000円未満』の人の割合

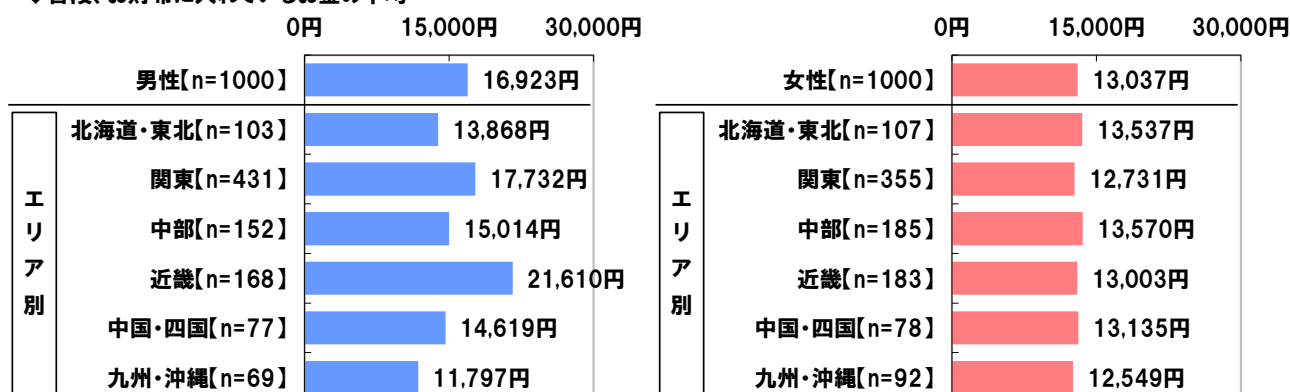


◆ 普段、お財布に入っているお金が『20,000円以上』の人の割合



男女・エリア別にみると、お財布に入れているお金の平均は、近畿の男性 (21,610 円) が突出しており、全体 (14,980 円) と比べて 6,630 円高くなりました。

◆ 普段、お財布に入れているお金の平均



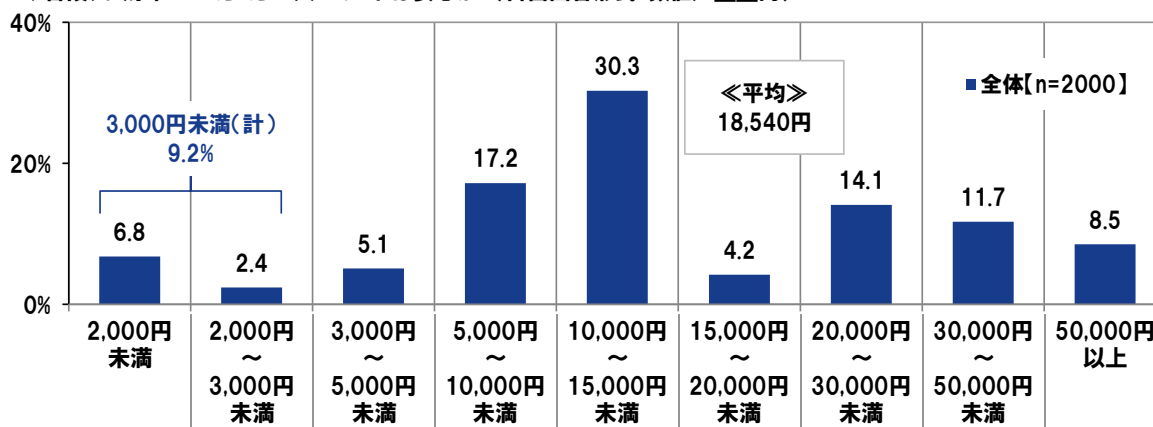
■ 普段、お財布に入っていれば安心できるお金の平均は 18,540 円と、実際に持ち歩くお金よりも高額 20 代男性の 6 人に 1 人が「3,000 円未満」と回答、理由は「基本、キャッシュレス決済」

では、お財布に入っていれば安心できるお金について、いくらくらいをイメージしている人が多いのでしょうか。

全回答者（2,000 名）に、普段、お財布にいくらくらい入っていれば安心か聞いたところ、「10,000 円～15,000 円未満」（30.3%）に最も多くの回答が集まったほか、「5,000 円～10,000 円未満」（17.2%）や「20,000 円～30,000 円未満」（14.1%）などの回答もみられ、平均は 18,540 円でした。また、『3,000 円未満』の割合は 9.2%となりました。

“普段、お財布に入れているお金の平均”（14,980 円）と比較すると、“普段、お財布に入っていれば安心できるお金の平均”（18,540 円）のほうが 3,560 円高くなりました。

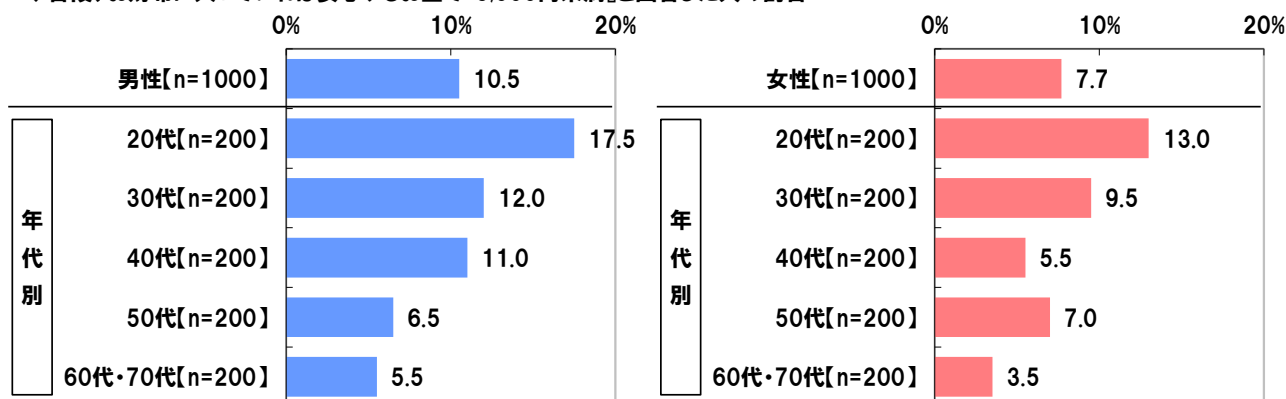
◆ 普段、お財布にいくらくらい入っていれば安心か（自由回答形式：数値/___円）



男女・年代別にみると、『3,000 円未満』と回答した人の割合は、20 代男性（17.5%）が最も高くなり、20 代女性（13.0%）、30 代男性（12.0%）が続きました。

『3,000 円未満』で安心と回答した理由をみると、20 代男性では「基本、キャッシュレス決済」や「キャッシュレス派なので現金を持ち歩かない」、「普段、電子マネーを使用する」、20 代女性では「ほとんどキャッシュレス決済」や「スマホやカードがあれば現金を使うことがあまりない」、30 代男性では「コード決済とクレジットカードで十分」や「電子決済をメインに使っている」など、キャッシュレス決済の浸透がうかがえる回答が多数挙げられました。

◆ 普段、お財布に入っていれば安心するお金で『3,000円未満』と回答した人の割合



■今年、お金をかけたことで人生満足度が上がったもの

「旅行」がダントツ、2位「家電」3位「車」

かけた金額の平均は「旅行・14万円」、「家電・29万円」、「車・352万円」

全回答者（2,000名）に、今年、お金をかけたことで人生の満足度が上がったものを聞いたところ、「旅行」がダントツとなりました。旅行先で美しい景色を堪能したり、観光スポットを楽しんだり、美味しいものに舌鼓を打ったりして、充実した時間を過ごせた人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「家電」、3位「車」、4位「洋服」、5位「食事」となりました。

かけた金額の平均をみると、1位の「旅行」は140,683円、2位の「家電」は294,115円、3位の「車」は3,515,317円、4位の「洋服」は62,579円、5位の「食事」は31,965円でした。

◆今年、お金をかけたことで人生の満足度が上がったもの（自由回答形式）※上位10位までを表示

◆上記のことにかけた金額（自由回答形式：数値／___円）

全体[n=2000]

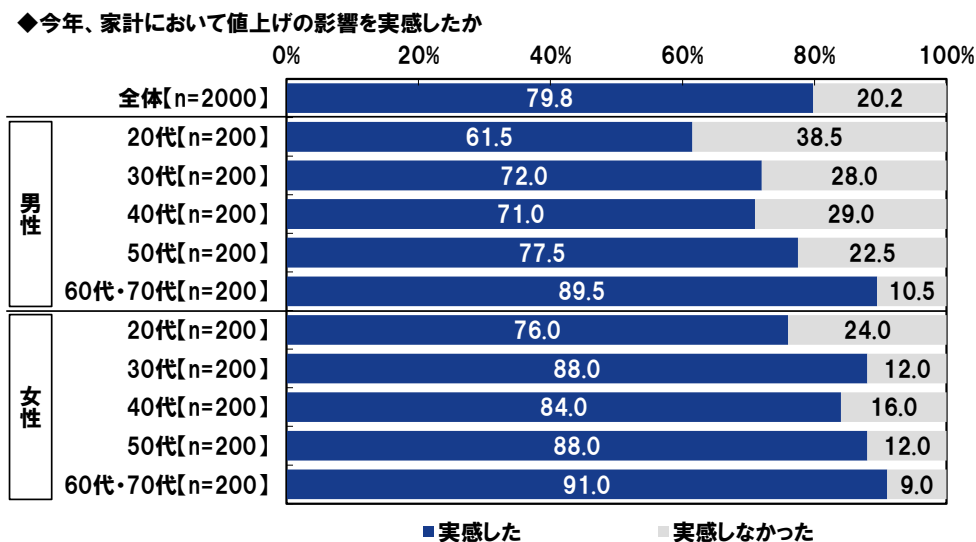
		名	かけた金額(平均)
1位	旅行	139	140,683円
2位	家電	78	294,115円
3位	車	63	3,515,317円
4位	洋服	44	62,579円
5位	食事	34	31,965円
6位	投資・資産運用	28	4,746,711円
7位	コンサート・ライブ	25	57,960円
8位	家具	23	120,348円
9位	パソコン	22	279,636円
10位	趣味	21	81,667円

■値上げラッシュが家計を直撃！ 「今年、値上げの影響を実感した」80%

値上げの影響を実感したもの 1位「食費」2位「水道光熱費」3位「日用品費」

全回答者（2,000名）に、今年、家計において値上げの影響を実感したか聞いたところ、「実感した」は79.8%、「実感しなかった」は20.2%と、大多数の人が値上げの影響で家計にしわ寄せが来ていると感じていることがわかりました。

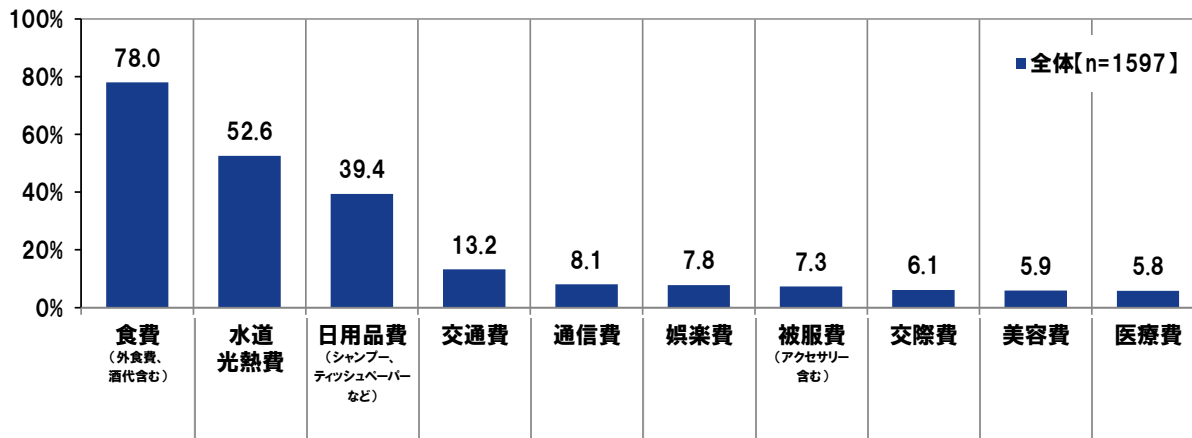
性年代別にみると、値上げの影響を実感した人の割合は、男女とも60代・70代が最も高くなり、男性では89.5%、女性では91.0%でした。



今年、家計において値上げの影響を実感した人（1,597名）に、値上げの影響を実感したものを聞いたところ、「食費（外食費、酒代含む）」（78.0%）がダントツとなりました。現在、急激な円安の進行や原材料・エネルギー価格の高騰などの影響で、値上げラッシュが続いています。小売店や飲食店の利用の際に、食費増加による家計圧迫を実感している人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「水道光熱費」（52.6%）、「日用品費（シャンプー、ティッシュペーパーなど）」（39.4%）、「交通費」（13.2%）、「通信費」（8.1%）でした。

◆今年、家計において値上げの影響を実感したもの（複数回答形式）※上位10位までを表示

対象：今年、家計において値上げの影響を実感した人



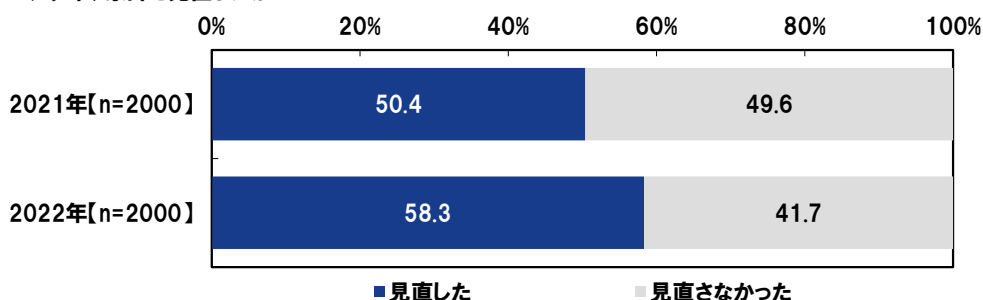
■「今年、家計を見直した」昨年調査から8ポイント上昇し58%
家計で見直したもののTOP3は「食費」「通信費」「水道光熱費」

続いて、家計について質問しました。

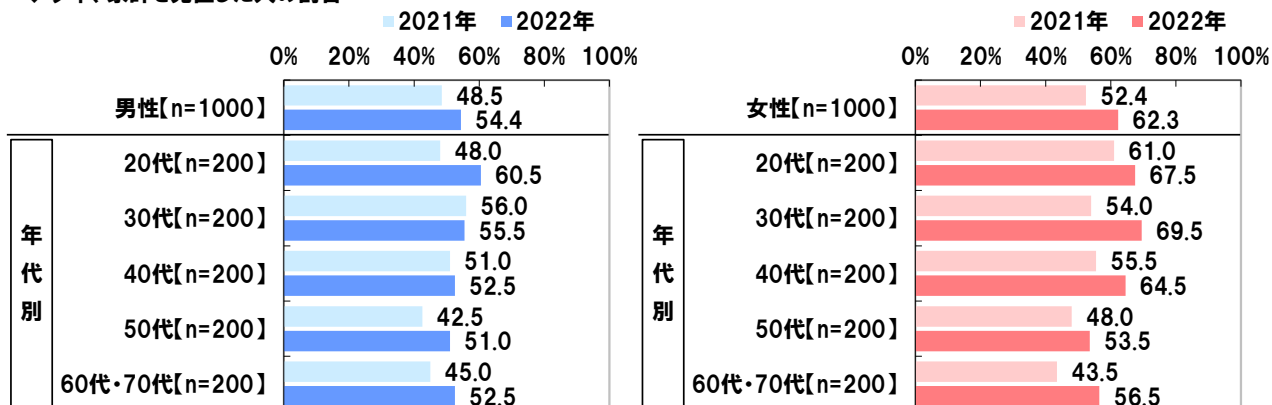
全回答者（2,000名）に、今年、家計を見直したか聞いたところ、「見直した」は58.3%、「見直さなかった」は41.7%となりました。

昨年の調査結果と比較すると、家計を見直した人の割合は、2021年50.4%→2022年58.3%と、7.9ポイント上昇しました。男女・年代別にみると、家計を見直した人の割合は、男性では20代（2021年48.0%→2022年60.5%、12.5ポイント上昇）、女性では30代（2021年54.0%→2022年69.5%、15.5ポイント上昇）で上昇幅が最も大きくなりました。

◆今年、家計を見直したか

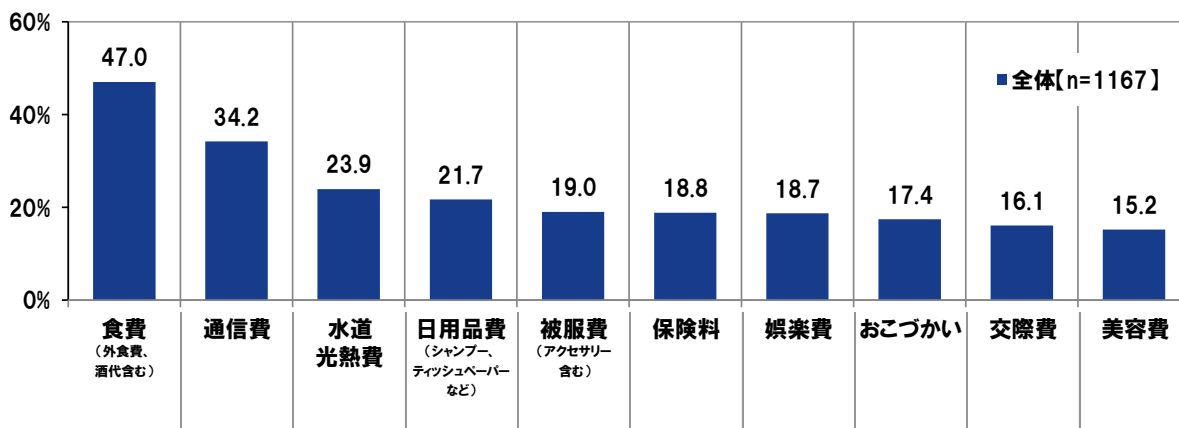


◆今年、家計を見直した人の割合



今年、家計を見直した人（1,167名）に、何を見直したか聞いたところ、「食費（外食費、酒代含む）」（47.0%）が最も高くなり、「通信費」（34.2%）、「水道光熱費」（23.9%）、「日用品費（シャンプー、ティッシュペーパーなど）」（21.7%）、「被服費（アクセサリ含む）」（19.0%）が続きました。

◆今年、家計で見直したものの（複数回答形式）※上位10位までを表示 対象：今年、家計を見直した人

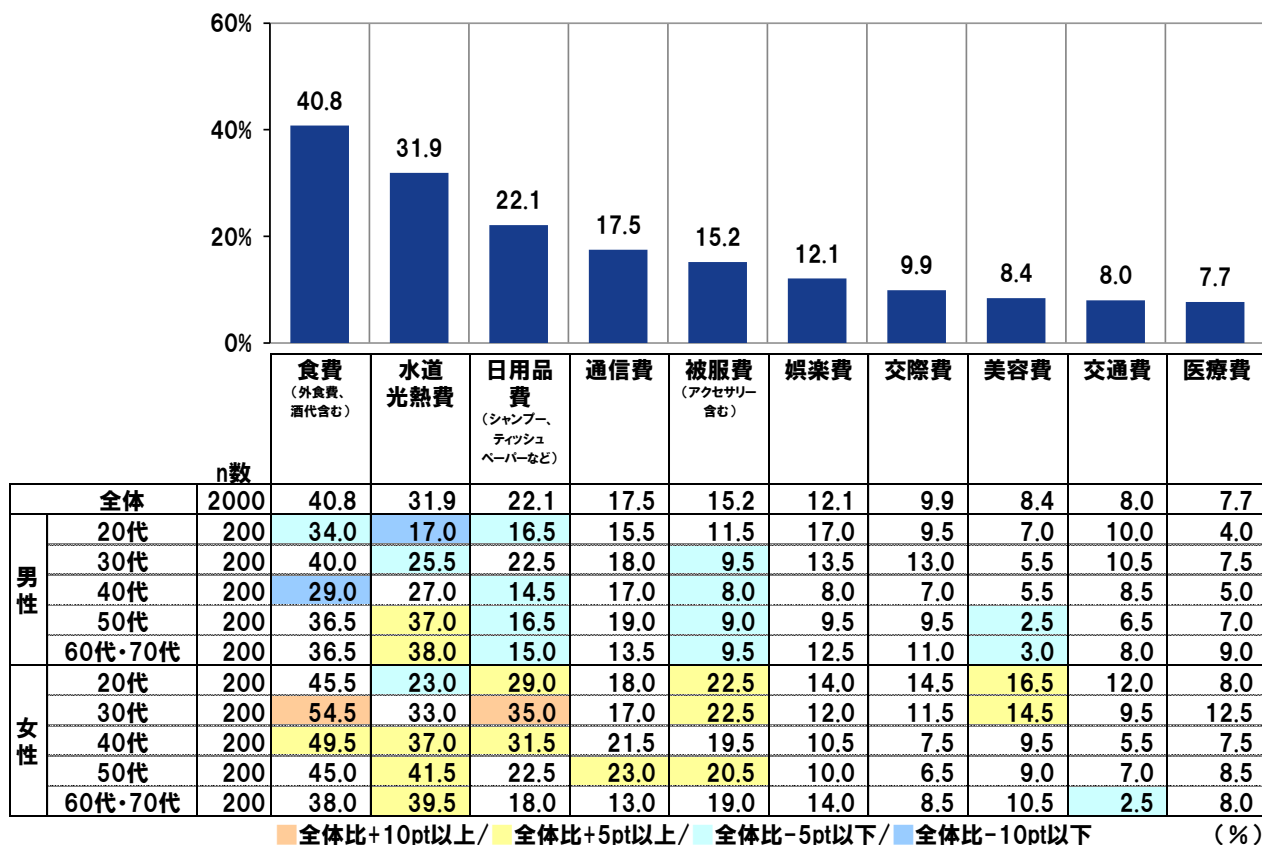


■来年、節約したいもの TOP3 は「食費」「水道光熱費」「日用品費」

全回答者（2,000名）に、来年、節約したいものを聞いたところ、「食費（外食費、酒代含む）」（40.8%）が最も高くなりました。家計の防衛策として、できる範囲で食費の節約に取り組みたいと考えている人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「水道光熱費」（31.9%）、「日用品費（シャンプー、ティッシュペーパーなど）」（22.1%）、「通信費」（17.5%）、「被服費（アクセサリー含む）」（15.2%）でした。

性年代別にみると、30代女性では「食費（外食費、酒代含む）」（54.5%）と「日用品費（シャンプー、ティッシュペーパーなど）」（35.0%）が全体と比べて10ポイント以上高くなりました。

◆来年、節約したいもの（複数回答形式） ※上位10位までを表示

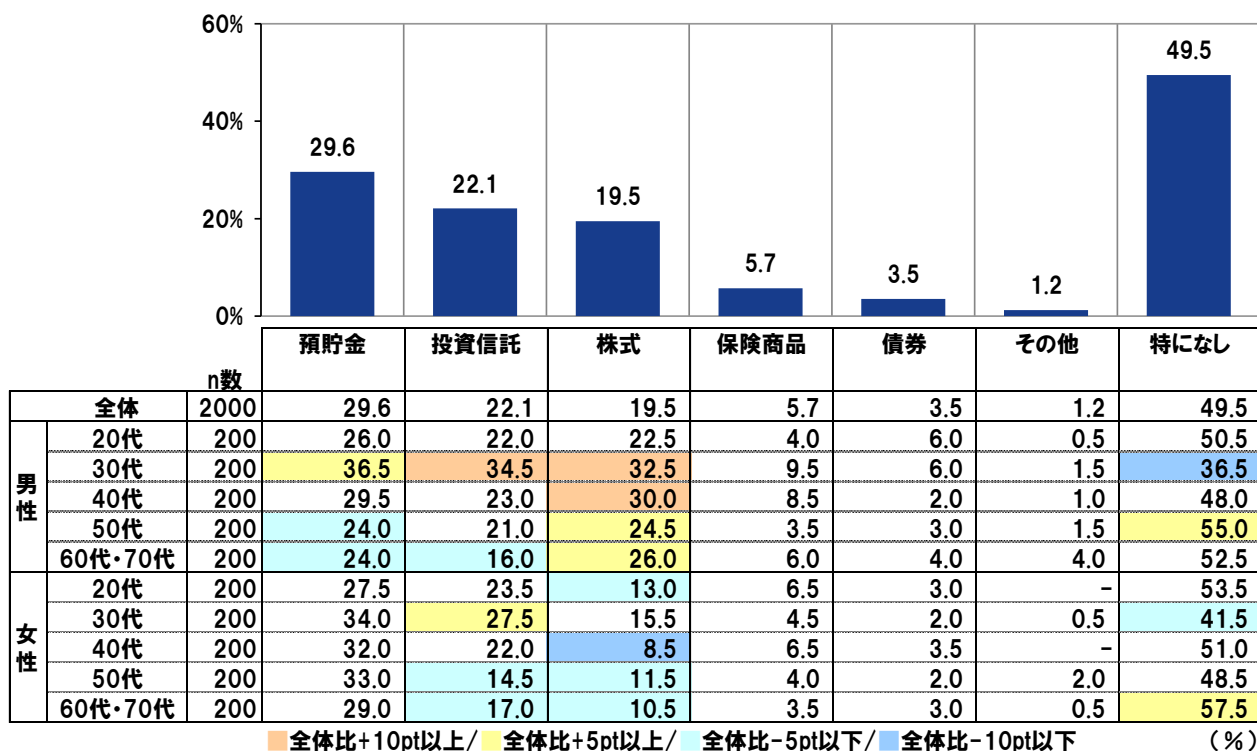


■家計防衛のために資産に組み入れたい金融商品 1位「預貯金」2位「投資信託」3位「株式」
40代以上の男性では「株式」が1位

全回答者（2,000名）に、来年、家計防衛のために資産に組み入れたい金融商品を聞いたところ、「預貯金」は29.6%、「投資信託」は22.1%、「株式」は19.5%、「保険商品」は5.7%、「債券」は3.5%となりました。

性年代別にみると、40代以上の男性では「株式」（順に40代男性30.0%、50代男性24.5%、60代・70代男性26.0%）が1位でした。

◆2023年(来年)、家計防衛のために資産に組み入れたい金融商品（複数回答形式）



第3章：来年の予想と目標

■来年、実現したい目標 1位「旅行」2位「ダイエット」3位「貯蓄」

来年の目標や予想について質問しました。

全回答者（2,000名）に、来年、実現したい目標を聞いたところ、1位「旅行」、2位「ダイエット」、3位「貯蓄」、4位「健康維持・健康づくり」、5位「就職・転職」となりました。

男女別にみると、男女とも「旅行」が1位となり、男性では2位「貯蓄」、3位「健康維持・健康づくり」、女性では2位「ダイエット」、3位「貯蓄」でした。

◆来年、実現したい目標（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]			男性[n=1000]			女性[n=1000]		
順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名
1位	旅行	148	1位	旅行	57	1位	旅行	91
2位	ダイエット	105	2位	貯蓄	44	2位	ダイエット	90
3位	貯蓄	94	3位	健康維持・健康づくり	42	3位	貯蓄	50
4位	健康維持・健康づくり	91	4位	就職・転職	32	4位	健康維持・健康づくり	49
5位	就職・転職	63	5位	資格取得	28	5位	就職・転職	31
6位	資格取得	52	6位	収入アップ	26	6位	結婚	28
7位	結婚	46	7位	投資・資産形成	23	7位	資格取得	24
8位	収入アップ	44	8位	結婚	18	8位	仕事の充実	21
9位	仕事の充実	39	8位	仕事の充実	18	9位	収入アップ	18
10位	投資・資産形成	34	10位	ダイエット	15	10位	妊娠・子どもを授かる	16

性年代別に1位をみると、男性では20代は「就職・転職」、30代は「貯蓄」、40代は「健康維持・健康づくり」、50代と60代・70代は「旅行」でした。他方、女性では20代は「結婚」「就職・転職」「貯蓄」、30代と40代は「ダイエット」、50代と60代・70代は「旅行」でした。

◆【性年代別】来年、実現したい目標（自由回答形式）※上位5位までを表示

20代男性[n=200]			30代男性[n=200]			40代男性[n=200]			50代男性[n=200]			60代・70代男性[n=200]		
順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名
1位	就職・転職	13	1位	貯蓄	18	1位	健康維持・健康づくり	8	1位	旅行	12	1位	旅行	28
2位	資格取得	12	2位	資格取得	10	2位	収入アップ	7	2位	健康維持・健康づくり	10	2位	健康維持・健康づくり	19
3位	貯蓄	11		就職・転職	10	2位	旅行	7	3位	仕事の充実	6	3位	貯蓄	7
4位	収入アップ	6	4位	結婚	9	4位	投資・資産形成	6	3位	収入アップ	6	4位	仕事の充実	5
5位	結婚	4	5位	投資・資産形成	8	5位	ダイエット	5	5位	ダイエット	4	5位	就職・転職	3
	試験合格	4	5位	貯蓄	5		仕事の充実	5		就職・転職	4		体調改善	3
	旅行	4								投資・資産形成	4		投資・資産形成	3

20代女性[n=200]			30代女性[n=200]			40代女性[n=200]			50代女性[n=200]			60代・70代女性[n=200]		
順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名
1位	結婚	13	1位	ダイエット	19	1位	ダイエット	32	1位	旅行	24	1位	旅行	35
	就職・転職	13	2位	貯蓄	17	2位	旅行	15	2位	ダイエット	19	2位	健康維持・健康づくり	20
	貯蓄	13	3位	旅行	12	3位	健康維持・健康づくり	12	3位	健康維持・健康づくり	12	3位	ダイエット	10
4位	ダイエット	10	4位	結婚	11	4位	就職・転職	9	4位	貯蓄	10	4位	片付け・不用品の処分	7
	試験合格	10	5位	資格取得	8	5位	貯蓄	8	5位	収入アップ	5	5位	スポーツの技術向上	4
			5位	妊娠・子どもを授かる	8							5位	運動・スポーツトレーニング	4
													仕事の充実	4

■「来年は今年より家族や友人との人間関係が良くなると思う」20代女性の57%

全回答者（2,000名）に、自身の健康状態やマネー事情、人間関係について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか質問しました。

【健康状態】

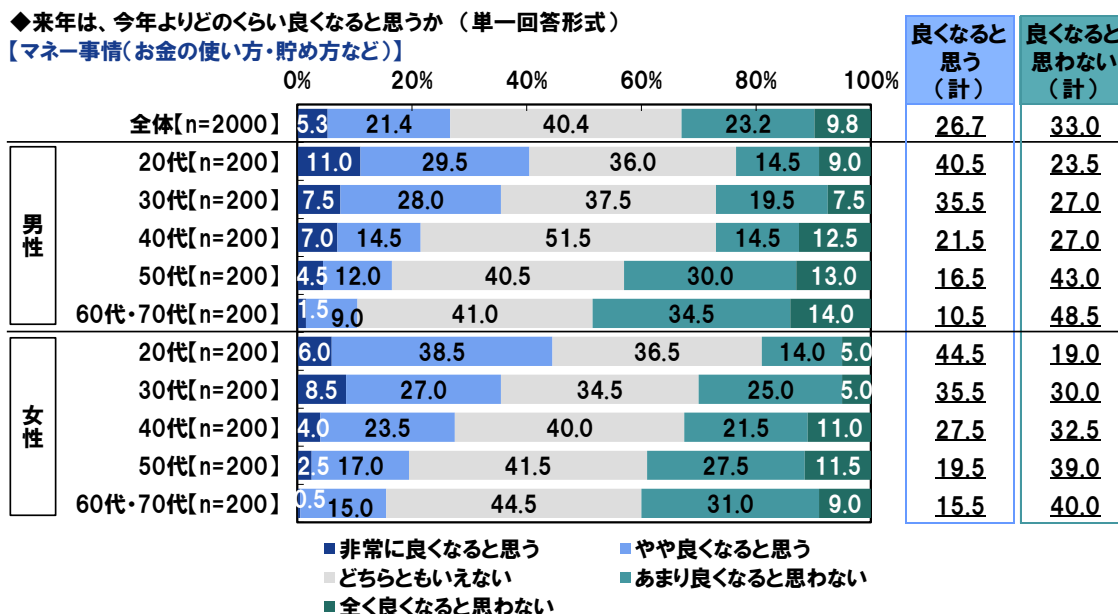
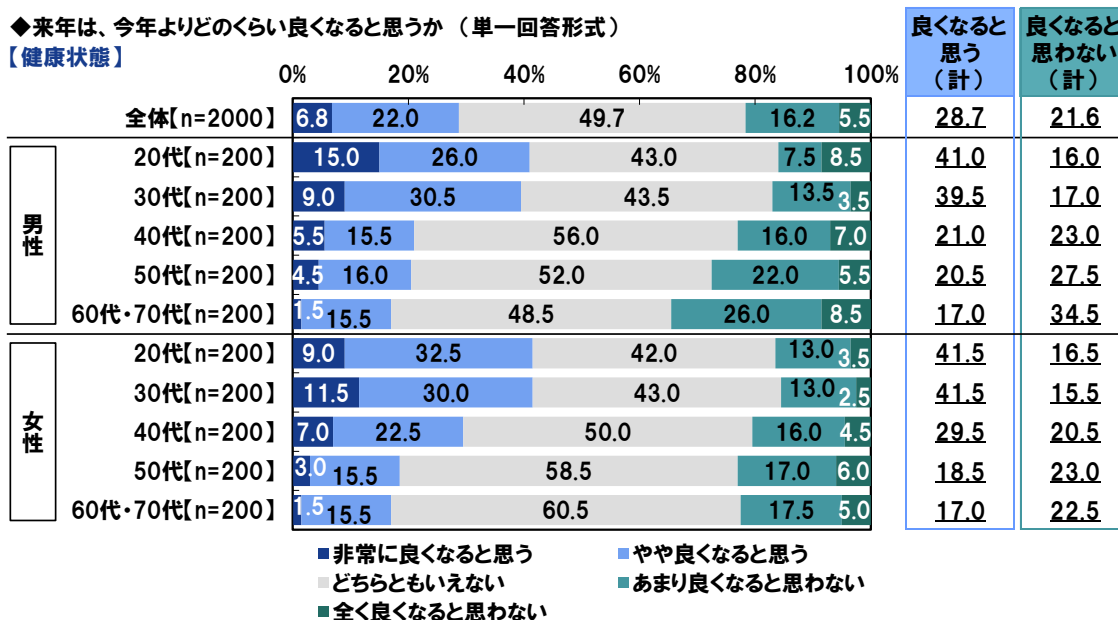
「非常に良くなると思う」が6.8%、「やや良くなると思う」が22.0%で、合計した『良くなると思う』は28.7%でした。

「全く良くなると思わない」が5.5%、「あまり良くなると思わない」が16.2%で、合計した『良くなると思わない』は21.6%となりました。

【マネー事情（お金の使い方・貯め方など）】

『良くなると思う』は26.7%、『良くなると思わない』は33.0%となりました。

性年代別にみると、健康状態が良くなると思える人の割合が最も高くなったのは20代女性と30代女性（いずれも41.5%）、マネー事情が良くなると思える人の割合が最も高くなったのは20代女性（44.5%）でした。若年層の女性には、健康面や金銭面で明るい見通しを持っている人が多いようです。



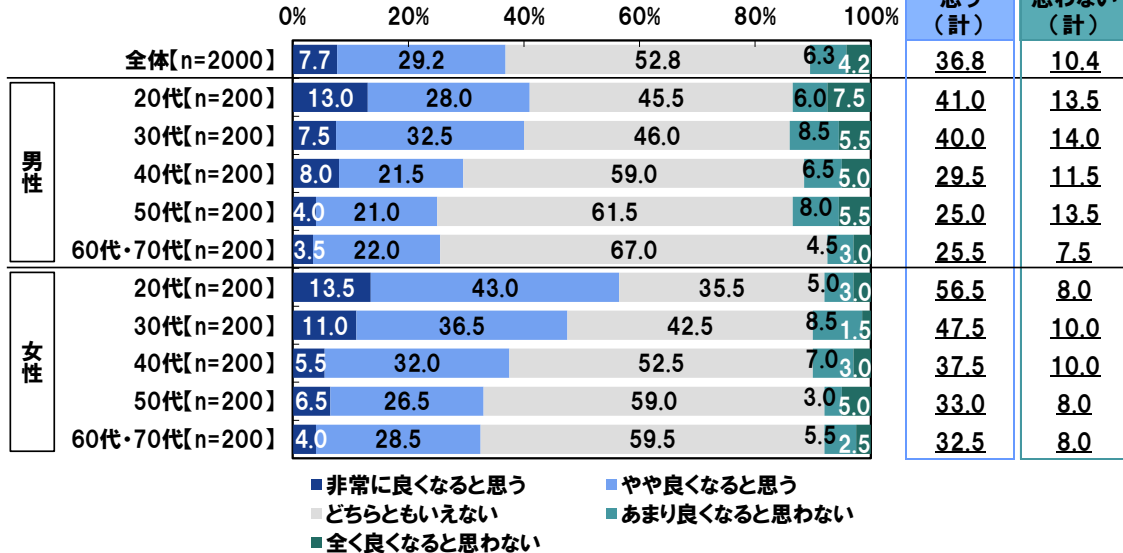
【自身の家族や友人との人間関係】

『良くなると思う』は36.8%、『良くなると思わない』は10.4%となりました。

性年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、20代女性（56.5%）が最も高く、半数を超えました。20代女性には、身近な人とのコミュニケーション頻度を向上させることや、大切な人との関係を深めることに、期待感や前向きな思いを抱いている人が多いのではないのでしょうか。

◆来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか（単一回答形式）

【自身の家族や友人との人間関係】



■「来年は、今年より仕事の状況が良くなると思う」ビジネスパーソンの31%、若年層とシニア層で意識差がハッキリと表れる結果に

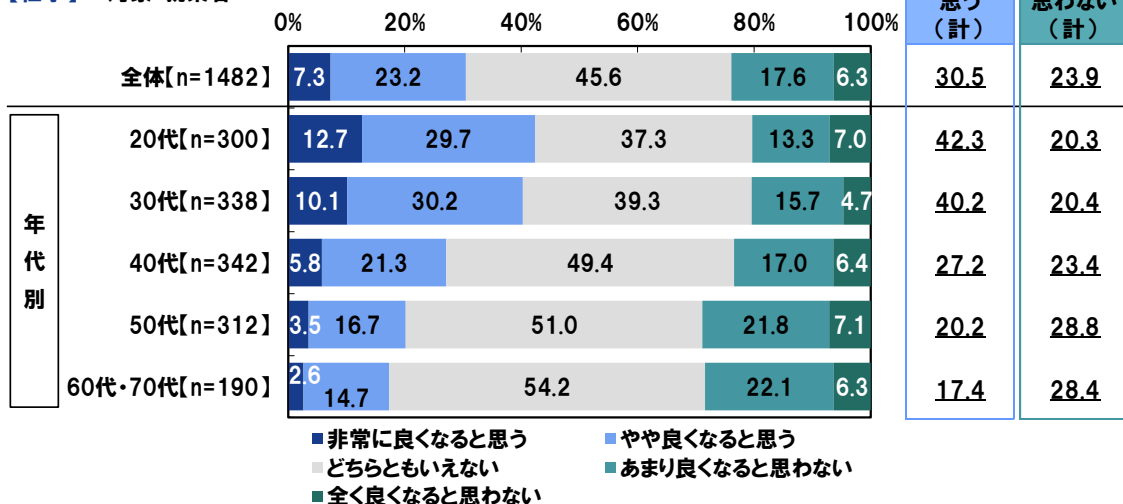
来年の仕事の見通しについてはどのようにとらえている人が多いのでしょうか。

就業者（1,482名）に、自身の仕事について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか聞いたところ、『良くなると思う』は30.5%、『良くなると思わない』は23.9%となりました。

年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、20代（42.3%）は4割強、60代・70代（17.4%）は2割弱と、若年層とシニア層とで意識差がハッキリと表れる結果となりました。

◆来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか（単一回答形式）

【仕事】 対象：就業者



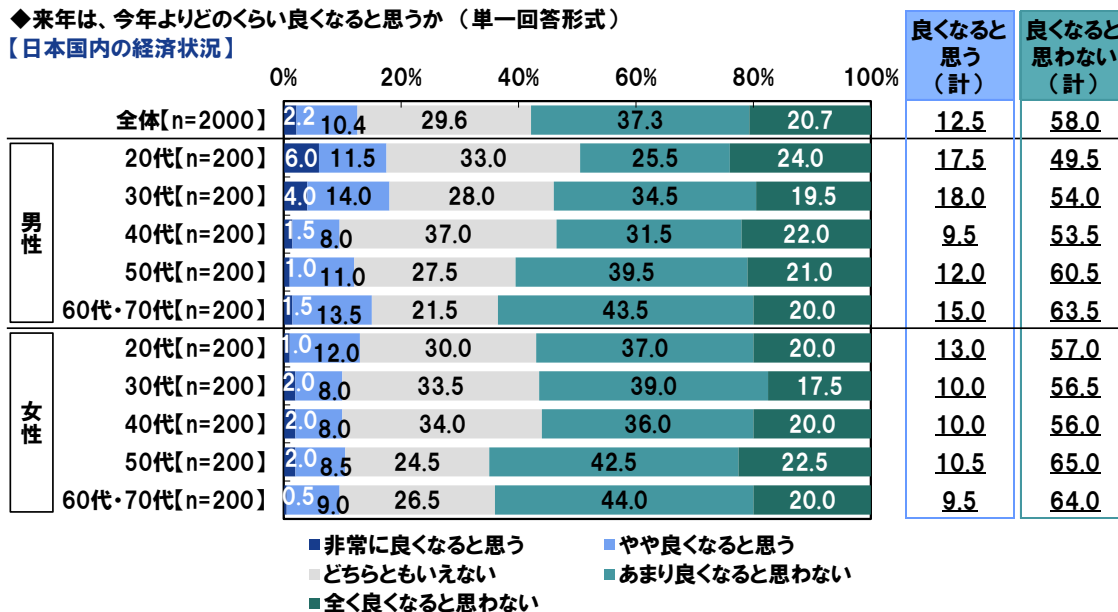
■「来年は、今年より日本国内の経済状況は良くなると思う」13%にとどまる

全回答者（2,000名）に、日本国内の経済状況について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか聞いたところ、『良くなると思う』は12.5%、『良くなると思わない』は58.0%と、ネガティブなとらえ方をしている人が多数派となりました。物価高や円安基調の継続などを懸念し、来年の経済状況に対し明るい見通しを持っていない人が多いのではないのでしょうか。

性年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、40代男性と60代・70代女性（いずれも9.5%）では1割未満にとどまりました。

◆来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか（単一回答形式）

【日本国内の経済状況】



■2023年のトレンドワードになると思うもの

TOP5は「値上げ」「円安」「コロナ第8波・第9波」「ノーマスク」「コロナ収束」
30代女性の5人に1人が「産後パパ育休」、30代男性の5人に1人が「メタバース」と予想

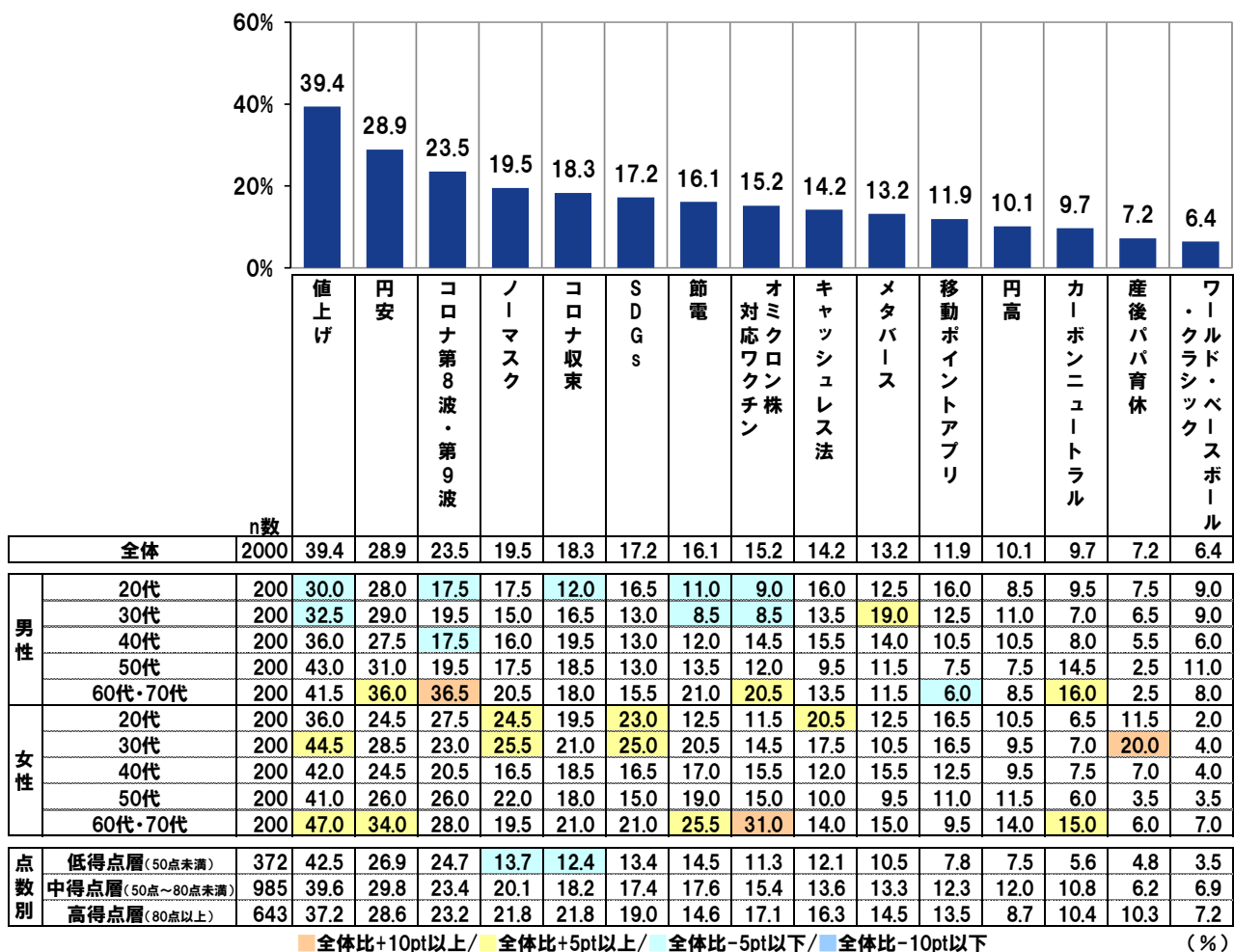
最後に、来年のトレンドについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、来年のトレンドワードになると思うものを聞いたところ、「値上げ」（39.4%）が最も高くなりました。今年続いた値上げラッシュが来年も継続すると予想する人が多いようです。次いで高くなったのは、「円安」（28.9%）、「コロナ第8波・第9波」（23.5%）、「ノーマスク」（19.5%）、「コロナ収束」（18.3%）と、コロナ関連ワードが上位に複数挙がりました。

性年代別にみると、30代女性では「産後パパ育休（子どもが生まれてから8週間までの間に合計4週間の育休を男性が取得できる制度）」（20.0%）、60代・70代女性では「オミクロン株対応ワクチン」（31.0%）が全体と比べて10ポイント以上高くなりました。また、20代女性・30代女性では「ノーマスク」（順に24.5%、25.5%）と「SDGs」（23.0%、25.0%）、30代男性では「メタバース」（19.0%）が全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

今年1年を100点満点で評価した得点の状況別にみると、「ノーマスク」（低得点層13.7%、中得点層20.1%、高得点層21.8%）や「コロナ収束」（低得点層12.4%、中得点層18.2%、高得点層21.8%）は高得点層ほど高くなりました。今年1年に高得点を付けた人は、来年はコロナ禍が落ち着きを見せ、マスクなしの生活に戻ることを期待する人が多いのかもしれない。

◆2023年(来年)のトレンドワードになると思うもの（複数回答形式） ※上位15位までを表示



注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がございます。
また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

- ◆調査タイトル：くらしの総決算 2022
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
全国の20～79歳の男女
- ◆調査期間：2022年10月5日～10月6日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル
(有効回答から性別×年代区分が均等になるように抽出)

(内訳)	20代	30代	40代	50代	60代・70代
男性	200	200	200	200	200
女性	200	200	200	200	200

■■会社概要■■

会社名：プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
 代表者名：代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充
 創業：2010年4月1日
 本社所在地：東京都千代田区永田町 2-13-10
 業務内容：生命保険業
 (営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。